クラス	TU312	担当教員	山本敏郎
テーマ	子どもたちの生きづらさと向き合う教育実践をつくる		
著書・論文 研究課題等	○『学校教育と生活指導の創造』学文社　2015 年 ○『新しい時代の生活指導』有斐閣　2014 年 ○『教育改革と 21 世紀の学校イメージ』いしかわ県民教育文化センター　2000 年 ○『学校と教室のポリティクス』フォーラム A　2004 年 ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」日本生活指導学会『生活指導研究』28 号　エイデル研究所　2011 年。 ○「〈格差〉〈貧困〉問題と生活指導」『生活指導』2008 年 7 月号		

ゼミナール概要

キーワード：　生きづらさ、貧困、生活指導、当事者性のある学び　生活者としての子ども etc

目的、内容、方法、授業計画等：

生きづらさをかかえて苦しんでいる子どもたちが 生きる勇気と希望を紡ぎだせるようにどう支援できるのか、生きる支えとなる学習をどうつくることができるのか を研究します。

レディメイドの教科内容や指導マニュアルを使って、「うまく」子どもに教えたり指導することが教育だとは考えていません。そんな「うまい」話はありません。教育とは、学校用の児童・生徒 を演じさせることではなくて、生活者 としての子どもたちの現実との格闘から出発し、この格闘を支えることだと考えるからです。

このゼミでは、こうした実践している全国の教師や福祉関係者たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、教育実践をつくる力を身につけていきます。

3 年生のときは、生きづらさに向き合っている教育実践記録を検討したり、生きづらさと向き合うための理論（教育学に限らず、社会学、政治学、哲学も視野に入れて）を学びます。4 年生では研究報告を順番に行います。年 3 回（4 月、8 月、11 月）に合宿を予定しています。また、FACEBOOK や LINE にゼミのページを作っていますので、3 年生同士、3・4 年生間で、意見交流や情報交換も行います。

担当教員からのメッセージ

1　自分が 2 年間何を学びたいかをじっくり考えてください。自分が研究したいことがあるかどうかがもっとも重要なことです。それをもって相談に来てください。卒業するころには、間違いなく、**「知る―疑う（問う）―確かめる」**力がみにつき、学ぶことが楽しいと感じることができるようになります（歴代卒業生がそう言って卒業しているので間違いないでしょう）。

2　今年も採用試験の結果は好調でしたが、ゼミで採用試験対策はやりません（学科の方針です）。採用試験目当ての人は来ないでください。

3　学びの空洞化・商品化・ゲーム化から抜け出したいと思っている人が来て下さい。

4　ゼミを中心に学生生活を設計してください。自分のことを「生徒」（pupil）と呼ぶ人もいたり、あなたたちのことを「生徒」と呼ぶ大人もいるようですが、このゼミでは 「学生」（student） であることを求めます。ですから、あなたたちはわたしを teacher ではなくて professor として付き合ってください。細かく管理することはしませんが、ゼミを軽視すると途中で追放する こともあります。

5　参考までに、今 4 年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。

○児童養護施設の小規模化と家庭的支援の研究、○消費文化社会にゆれる子どもたちについての調査・研究、○インクルーシブ・スポーツにおける健常児の障害理解についての研究、○〈障害児支援に対するイルカセラピーの可能性に関する研究、○体育における障害児と健常児の共同学習に関する研究、○日本における教育の空洞化に関する研究、○不登校支援における学校づくりに関する研究、○社会的実践主体を育てる対話の授業に関する研究、○いじめ対策における“KiVa”の有効性に関する研究、○離婚による一人親家庭を生きる子どもの生きづらさに関する研究、○いじめの構造の解体に関する研究、○当事者研究に関する考察